
氷の世界

次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷の世界

【コード】

N9150K

【作者名】

次郎

【あらすじ】

地球が氷河期に突入してしまい。そこで少年が旅をするという話です。

憧れ（前書き）

初めて投稿するので文章的にもいたらぬところが多々あると思いますが、楽しんでいただければ幸いです。

憧れ

かつて世界を襲った異常気象により、地球は氷河期へと突入し、人々は地下施設への避難を余儀なくされていた。

地下施設内の中学校。HR前の教室では、生徒たちが騒がしくも楽しそうに過ごしていた。だが、チャイムが鳴ると、先ほどまでの騒がしさが嘘のように静かになり、生徒たちは各々の席で担任が来るのをまつた。

ガラガラ、と音を立て教室の前の扉が開き、担任の教師が中に入ってきた。そして手際よく朝の挨拶を済ませるとHRへ移行した。

「HRの前に紹介したい人がいる」

そう言うつと担任は、室内なのに何故かサングラスをしている男を教室へ招き入れた。

「彼は地上で生活している、瀬戸修二さんです」

そう紹介すると、男は軽く会釈した。

「彼は地上でハンターをしているということなので、今回特別に地上での冒険話をさせていただくことになりました」

担任の言葉に生徒たちはみんな拍手で喜んだ。

そして男が冒険話をしだすと、生徒たちは一様に聞き入っていた。地下施設の生活は不自由はないが新しい発見が無いので、地上の話は夢のような世界だった。そして、男の話が終わる頃には、ほとんどの生徒が地上世界への憧れを抱いていた。中でも昔から地上世界に憧れていた名城鉄也は、「おれ今すぐにでも地上に行く」と言うつて、他の生徒たちに笑われていたが、鉄也の決心は本物だった。

地上脱出計画

学校から帰った鉄也は、両親に地上での生活の許可を貰うべく、両親が揃う夕食の時に話を切りだした。

「おれ、明日にでも地上に出ていくよ」

父親はその言葉を聞くやいなや、右の拳を鉄也の頬へと叩きつけた。

「馬鹿かお前は！！ 地上がどんな場所なのかも知らんくせに」

鉄也の父は技術者で、地上にある換気施設などのメンテナンスのために数回ほど、地上に出たことがあった。

「もの凄く寒いし、暗視ゴーグルがなきゃ何も見えないんだぞ。それでも生活出来ると思うのか」

鉄也は何も言わずに黙りこくっていた。それを見た父親は、鉄也が諦めたと思いつく話を終わらせた。だが、鉄也は諦めたのでは無く、自分の無計画さに反省していたのだ。

鉄也は部屋に戻り、必要な物をノートに書き出し、それを集め始めた。暗視ゴーグル、防寒着は父親のを借用。他の足りない物は、こずかい貯金で何とか集めることが出来た。

次に出発の日時。何も知らずに地上に出るのは危険と云うことで、あのハンターについていくと勝手に決めた。地下施設の住民以外の人間の在留期限は三日間なので、出発は明後日ということに決まった。そして鉄也は、地上世界へ胸躍らせながらベッドで眠りについた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9150k/>

氷の世界

2010年10月15日22時44分発行